

# 発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全3枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
1		<p>当初予算5つの柱の柱1「スピーディーに声が届く、わかりやすい身近な政治」について</p> <p>「スピーディーに声が届く、わかりやすい身近な政治」の目的を改めて問う。</p>	
2	(1)	<p>柱2「未来へ繋ぐ強くしなやかな財政」について</p> <p>自主財源の確保について</p> <p>加賀市ホームページには、「未来へ繋ぐ強くしなやかな財政」の主な取組として、ふるさと納税推進事業のみが記載されているが、6月補正予算までには、他にも自主財源確保の要となるような取組が示される見込みはあるのか。</p>	
	(2)	<p>ほっと石川観光プラン推進ファンドについて</p> <p>市債から4億5,500万円の投資とある。令和3年9月定例会において、効果があったことが伺えるが、今回の「強くしなやかな財政」への効果はどの程度見込まれるか。</p>	
3	(1)	<p>柱4「子供に幸福、県ナンバーワンの教育都市の実現」について</p> <p>方針と政策について</p> <p>基礎学力の定着と豊かな歴史や文化を活かした郷土教育に取り組むとあるが、具体的なゴールイメージを示せ。</p> <p>また、予算を見ると、歴史に関わる事業は、歴史民俗収蔵庫資料移設事業のみのようだが、他にもあるのか。</p>	
	(2)	<p>地域と連携した施設利用について</p> <p>歴史民俗収蔵庫資料の移設先の旧黒崎小学校は、地域住民の中でも今後の利活用について協議されていると聞く。地域住民との情報共有や意見交換の場はこれまでにあったのか。</p> <p>また、地域と連携した今後の施設利用について、見解を問う。</p>	
	(3)	<p>「豊かな歴史や文化を活かした郷土教育」について</p> <p>カリキュラム・オーバーロードが課題である学校へ郷土教育を持ち込むのは困難だと考えるが、指導は地域に委ねるのか、それとも加賀市独自の教育課程を編成していくのか。</p>	

# 発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
	(4)	<p>部活動地域展開について</p> <p>現在、地域クラブにおける文化的活動は吹奏楽のみであり、芸術・文化に関心のある生徒にとって、選択肢が十分とは言い難い。文化クラブの創設について、見解を問う。</p> <p>また、本市の歴史・文化資源を生かし、着付け・茶道・華道などに取り組む「和文化クラブ」や、地域農業と連携した「畑クラブ」など、地域協働型の新たな地域クラブ活動創設の可能性はあるか。可能ならば、地域人材を指導力に生かし、持続可能な取組とするために、市としてどのような工夫をしていくのか。</p>	
	(5)	<p>就学時健診の改善と5歳児健診の導入について</p> <p>現在加賀市では、各小学校にて10月から11月にかけて就学時健診が実施されており、その際に例年行われる知能検査の内容におけるジェンダーバイアス(性別に関する固定的な思い込みや偏見)は早急に改善すべきであると考えているが、見解を問う。</p> <p>また、今後5歳児健診を導入し、早期に就学に向けた行政支援や家庭での生活改善を促し、就学時健診は健康診断に絞った簡潔なものとする事で、学校にも家庭にも、子供にとっても幸せな加賀市になっていくと考えるが、5歳児健診の導入は考えているのか。</p>	
4	(1)	<p>加賀市版R E 100 の推進について</p> <p>加賀市版R E 100 域内リードプロジェクト事業について</p> <p>3月1日から潮津町のため池「琵琶ヶ池」で太陽光発電が稼働した。これまでの経過で、積雪による影響や強風時の影響について、どのような成果や課題が見つかったのか。</p> <p>また、琵琶ヶ池の事業も含め、加賀市版R E 100 域内リードプロジェクト事業について、令和5年からの5か年計画で、改めて計画の内容や現在の遂行状況、残り2年でどのような姿をゴールとして計画を進めていくのかを示せ。</p>	
	(2)	<p>市内での再生可能エネルギー開発について</p> <p>再生可能エネルギー開発はこれから市内でも進むと思われるが、先般、市内での太陽光発電開発において、事業者からの説明がないまま工事が始まったため住民からクレームが発生し、トラブルに発展したと聞いている。今後、同じような事態を避けるため、行政としてどのような対応が考えられるか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
	(3)	<p>災害時の活用について 再生可能エネルギーが複数ある中で、太陽光発電が最も身近であると思うが、太陽光発電を災害時に活用するために、企業と災害における応援協定を結ぶ予定はあるのか。</p>	